

制されているのではないと思われるが、除草はほとんど行なわれておらず、自然枯死にまかされた状況である。

ムラサキカタバミの冬季における生理、生態については、琉球模範農場において、元総理府技官、白坂進氏らによって調査や研究が行なわれ、報告されている。その一部は表7と8の通りである。土中深度別の発芽は20 cm 層以内が最も多いようであるが、30～40 cm 層もかなり発芽している。40～50 cm 層では、地中での発芽は認められているが、地上部への出芽はなかったようである。これからすると、地中40～50 cm 層から耕起、反転することにより、ムラサキカタバミを減少させることもできるように思われるが、現在の沖縄農業の耕うん方法では困難である。トラクターによる耕起でも深さ25 cm 内外であり、野菜作地帯では耕うん深度の浅い小型耕うん機の使用が多いので、ムラサキカタバミは容易に再生するようになる。多発地域の作物別、栽培中の除草方法については前述したが、少発地域では10数年前まで地中の鱗茎もろとも掘り取り、深さ150

cm 位のたて穴に埋殺する方法で防除した地域もあったが、効率があがらず、最近では、そのような方法は見られなくなっており、現在積極的、組織的に防除体制をとっている地域はないようである。ムラサキカタバミの防除については、現在より戦前や戦後十数年にかけての方が熱意あったようにも感じられる。これも2次産業や米軍およびサービス産業の盛況により、農産業への魅力低下の影響も大きいように思われるが、目下のところは農産業の重要性も叫ばれており、農業技術の向上に対する期待は大きく、省力的、効率的除草法の開発が切望されている。

3. あとがき

沖縄地域に発生するムラサキカタバミについてとりまとめたが、内容がサトウキビ中心になってしまった。他の作物については試験研究の少ないのと筆者が兼作室に在席している関係で説明不足になった。今後、究明されしだい報告できる機会もあると思う。

昭和49年度冬作(麦・いぐさ・水稻刈跡) 関係除草剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会

当協会委託の昭和49年度冬作(麦・いぐさ・水稻刈跡)関係除草剤の作用性および適用性試験成績検討会は、昭和50年9月2日、東京(農林年金会館)において開催した。

昭和49年度冬作関係の供試薬剤は12薬剤であり、作用性試験として12点、適用性試験

として25点が実施された。供試薬剤の成分は第1表の通りである。会議は、試験担当者よりの成績結果および考察の報告があり、それについて充分の検討がなされたのちに判定を行なったが、その結果は第1表に示す通りである。作用性試験供試薬剤については適用性についてのコ

メントを、適用性試験供試薬剤については実用性の判定を行ない、実用化可能と判定した薬剤については第2表のような使用基準を作成した。麦類対象薬剤については、供試全薬剤とも、薬量、除草効果に問題があり、さらに継続検討の要ありとされ、いぐさ対象の2薬剤は「実、継」

と判定され、一部で認められた茎長への影響について、とくに土壌条件との関係において明らかにすることが課題とされた。また、水稻刈跡用として供試された2薬剤は効果の変動がみられ、さらに効果について試験を継続すべきであると判定された。

第1表 昭和49年度冬作関係委託除草剤成分および判定結果一覧

対象作物	薬 剤 名	剤型	有効成分および成分含有率	委 託 会 社	試験の種 類	判定	判定理由および内容
I 麦 類	1) レナシル	水和	3-シクロヘキシル-5,6-トリメチレンウラシル 80%	丸和 バイオケミカル	作用性	—	混合剤として検討
	2) SL-49	水和	未公開 50%	石 原 産 業	作用性	—	薬量を増量して検討する
	3) SL-50	水和	・SL-49 50% ・既知化合物 19.5%	同 上	作用性	—	混合比の検討
	4) SL-55	水和	2-クロル-4-トリフル オルメチルフェニル-4- ニトロフェニルエーテ ル 40%	同 上	作用性 適用性	継	寒地、寒冷地域の畑作麦を中心に播種後土壌処理で検討する
	5) SL-67	水和	未公開 40%	同 上	適用性	継	減量して播種後土壌処理で検討する
	6) S-28	乳	0-エチル-0-(3-メ チル-6-ニトロフェニ ル)-N-セカンダリー ブチルホスホロチオアミ デート 50%	住友化学工業	作用性	—	有望。小麦について薬量10~30g/aの播種後土壌処理、出芽始期処理で適用性が高い。大麦については品種間抵抗性がありそうなので十分検討する
	7) NP-38	水和	NP-17系 70%	日 本 曹 達	作用性 適用性	継	イネ科雑草の除草効果変動性の検討

対象作物	薬 剤 名	剤型	有効成分および成分含有率	委 託 会 社	試験の 種 類	判定	判定理由および内容
I (つづき)	8) NP-39	水和	NP-17系	同 上	作用性 適用性	継	土壌処理，茎葉処理 で検討する
II い ぐ さ	1) S-28	粒	前 掲 7%	住友化学工業	適用性	実継	実：使用基準参照 継：茎長抑制につい て土壌条件を中心 に検討する
	2) S-28 ・ DBN	粒	• S-28 7% • 2,6-ジクロロベンゾ トリル 2%	住友化学工業	適用性	実継	実：使用基準参照 継：茎長抑制につい て土壌条件を中心 に検討する。地域 拡大も
III 水 稲 刈 跡	1) 塩素酸 ソーダ	水溶	塩素酸ナトリウム 60%	三 草 会 〔昭和電工〕 保土谷化学 〔日本カーリット〕	適用性	継	処理時期を早めて再 検討
	2) SC-70	水溶	塩素酸ナトリウム 70%	昭 和 電 工	適用性	継	

第2表 昭和49年度冬作関係実用化除草剤使用基準一覧

区 分	薬 剤 名	処 理 法	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
い ぐ さ	S-28粒	土壌処理 (湛水散布)	ノビエ出芽始 (4月上旬)	㊥ 300~400 g/a	壤土~埴土 (0.5cm/ 日以下)	温暖地西部 以西	冬雑草をDBN粒 剤散布によって防 除した後に使用す る。
	S-28・ DBN粒	茎葉兼土 土壌処理 (湛水散布)	2月上旬 ~3月中旬	㊥ 400~500 g/a	壤土~埴土 (0.5cm/ 日以下)	暖 地	1) 漏水田では使 用しない 2) 冬雑草が多い 水田では散布時 期を早める